

## 乗鞍岳 (2018年3/31) 山スキー報告

【山城】北アルプス南部・乗鞍岳

【日程と天気】2018年3月31日 晴れ

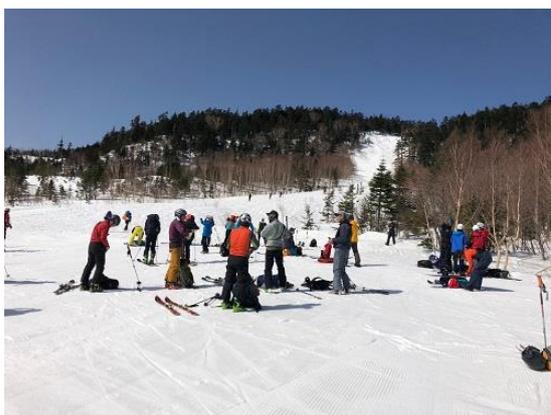
【メンバー】CL菊池・井上(里)・加藤・Tさん(船山)

【行程】駐車場ーリフト3本ーカモシカリフトトップ9;35ー切り開きツアーコース一位ヶ原ー13:00 標高 2750m (肩の小屋直下) 13:15ー往路を滑走ーゲレンデ滑走ー15:00 駐車場ー帰葉



- ・3月最終日は乗鞍岳の山スキーです。2016年3/26の時は、極めて積雪の少ない年でありスキー場の残雪も極めて少なかったが、今回も3月の暖かさで残雪量の減少が進んでいる。昨日の乗鞍スキー場の積雪は95cm、2016年よりスキー場の積雪はやや多いが、スキー場トップでリフト乗り場の係員に聞いてみると、残雪量は例年より少ないとのことであった。「てんきとくらす」では最高気温が標高3000mがで-4~5℃、2000mで1~2℃位で、高温傾向の3月にしてはやや低温であったが快晴で風の弱い絶好のツアー日和に誘われツアー客は多かった。

- ・ 9:35 スタート時、まだ雪面は固く、ツアールート入口の急斜面はクトー装着で問題なく登り上げた。2016年は靴アイゼン装着したが、今回は初級～中級者を対象としたツアーで、全員高齢者、クトーと靴アイゼンを持参した。スタート直後の急斜面を登り上げると、切り開きの緩斜面～中斜面のツアールートであり、クトーを外し、シール登行でゆっくり快適に進むと真白い剣が峰・高天原の山頂が望め、テンションがアップした。



- ・ 位ヶ原の台地に乗り上げる手前は急斜面、強い日差しに雪面は緩んできており、ルート取り次第で、シールが効きにくく滑って転倒する先行者が見られる。わがパーティは小生以外女性で、シール登高はあまり上手くない。転倒すると体力を消耗するため、出来るだけ易しいルート取りを見極め、ポイントをアドバイスし無事に台地に乗り上げた。
- ・ 位ヶ原の台地から上部は、風が少し出てきて、数日前に降雪があったようで、シュカブラで雪面は荒れていた。雪面は緩み切っておらず、進むにつれ表面はやや硬くなってきて、この辺は快適な滑走は期待できないようである。肩の小屋口の避難小屋やトイレが見えるが、例年より残雪は少ないようである。



5月～6月に登頂後いつも滑走する蚕玉岳からの急斜面の下部には表層雪崩によるデブリが見られる。固い雪面で条件が悪く、剣が峰方向に向かう方々が見えるが、この急斜面を滑走してくるスキーヤーは見られず、摩利支天岳に向かう方々が多い。コロナ天文観

測所を望みながら 13 時を限度として頑張っってハイクアップです。肩の小屋下の斜面は強い日差しで緩んでいるところも多く、薄茶色古い雪面はフィルムクラストの部分もあり、固い新雪とミックスしているが、この辺は滑走が期待できそうです。



肩の小屋のすぐ下で時間切れ、再びシュカブラの多い固い斜面になっており、ここから滑走を開始することとした。

- さあ、記念撮影をしていよいよ待ちに待った滑走開始です。スタート直後はこんな快適滑走ができるエリアもありますが徐々にシュカブラエリアを慎重に滑走します。緩斜面のシュカブラ地帯は表面がややク





ラストしていますが、それほど固くなっておらず、何とか苦勞しながらボーゲンなどを駆使しながらゆっくり滑走して行きます。



次第に雪面は柔らかくなってきて、荒れた雪面でもゆっくりターンできるようになり一安心、雪が緩んだ急斜面の上で休憩、隠し持ってきた泡の出る 350ml をKさんと回し飲み。その後のツアールートは極上ザラメの快適滑走を皆さん満喫できました。

・切り開きツアールート・フィナーレの急斜

面は日陰で、今回もガリガリで最大の核心部であった。バランスを崩し滑落する可能性があるため、メンバーは緊張して焦らず、狭いコースを水平移動し、標高差 20m程は横滑りで高度を下げ、無事に、ゲレンデトップに帰還した。30度を超すカモシカゲレンデは雪が緩み、問題なく滑走、標高 1550mの駐車場まで、快適なゲレンデザラメ滑走を楽しみ、標高差 1200m滑走の大満足の1日が終了した。

